
神様の悪戯～17年前の秘密～

憂羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の悪戯〜17年前の秘密〜

【Nコード】

N8879G

【作者名】

憂羽

【あらすじ】

高校2年の春。相葉華は1人の男性教師と出会う。ラブラブな彼氏が居るのに、なんだかその教師がとても気になる華……。

第1話

「・・・な。華っ。華ッ!!」

「きゃっ。あ、京・・・。」

「何ぼーっとしてんの？もう授業終わったぜ？」

「うそ・・・。」

「マジ。大マジ。帰ろうぜ。ミスド寄るんだろ、今日。」

「うん、あのね。」

「早く行くぞ。置いてくからな。」

そっぴいとさっさと京は歩き出し、教室を出て行った。

あたし、華と京はつきあって2年目のカップル。

倦怠期という倦怠期はまだ(?)ない。

「待って・・・っ、京。きゃあっ。」

あたしは派手に尻餅付いた。

気づいたと思うけど、あたしはドジです。

運動神経切れてるってよく言われる・・・(泣)

そんなあたしの彼氏、京はバスケット部の一員。

運動はめっちゃくちゃできる人。

そして・・・イケメンッ！！

上にも下にも他校にも、ファンクラブがあるとかないとか・・・。

時々思う。

何でそんな人があたしを好きになってくれたのかなって。

でも、譲る気も別れる気もまったくない。

だってあたしは・・・京が大好きだから。

えへへ。

「マジで置いてくぞ。」

「え、ちょっと・・・待ってってば。」

京、あたしは京が大好きです。

永遠なんて、今までずっと嘘だと思っていた。

でも、京との【永遠】は信じたい。

京とずっと一緒に居れたらって思ってる。

このとき、あたしはまだ、これから訪れる神様のいたずらに翻弄されることも気づかずにいた……。

第2話

高校2年生、2日目。

の2限目。

科目は日本史。

苦手でも得意でもない。

だけど、好き。

はっきり言うと、普通。

成績も顔も普通。

そんな窓際の席のあたしが、太陽の暖かい光に照らされ、眠りにつく寸前の話。

キンコーン〜 カーンコーン〜 のチャイムと共にそいつは現れた。

「はい、始めるぞ!!」

元気な声で挨拶。

目を擦りながら立ち、軽く礼をしながら座った。

そいつの顔も見ず。

そして、そいつは自己紹介を始めた。

黒板にスラスラ名前を書き、話し出す。

「今日から日本史を教える、東山仁です。よろしくな。」

みんなはそいつが入ってきてからずっと、ざわざわしてる。

「えーと、一人ずつ自己紹介から始めようか。名前と一言を言って座るように。」

えっ!?

その一言で眠気が消えた。

じゃあ、あたし……。

「では、1席の……相葉から。」

仕方なくあたしは立った。

そう。

あたしの名字は相葉。

フルネームは相葉 華。

出席番号はいつも1番。

常に日当たりのいい場所があたしの席。

「相葉華です。よろしくお願いします。」

頭を下げて、上げた瞬間。

全身に電気が流れた。

そして、ドクンと、胸の鼓動が激しくなる。

あたしはそいつ・・・東山仁によくわからない気持ちを抱いた。

そいつを見てると苦しい。

あたしはすぐにうつむいた。

まだ、胸がドキドキしてる。

何・・・これ。

京に対するドキドキとは違う。

でもなんだろう。

苦しい。

第3話

「それって、惚れたってことでしょ？認めちゃいなよオ。」

杏はそれしか言ってくれない。

杏はあたしにとって大事な親友。

だから、あたしのこの気持ちを相談したのに。

「だからーっ。違うんだってば！！聞ってるの？！！」

東山仁が気になるだけで、好きななんて一言も言ってないのに。

「認めれば楽なのに。」

「だからね？違うの！あたしは京が好きなツ！！」

大声で言っちゃった後、振り返ると、皆があたしたちに注目していた。

・・・恥ずかしいーっ！！

「杏のバカッ！！」

あたしは耐えられず教室を飛び出した。

幸いなのは、京が教室にいなかったこと・・・。

ドンッ。

そして教室を出たあたしは、誰かとぶつかった。

「いたた・・・すいませんっ。」

すぐに謝りつつ立ち上がると、相手は東山仁だった。

「ごめんなっ。えっと・・・相葉だよな？大丈夫？」

「はいっ！すいませんっ。」

「いいよ。あ、ちょうどよかったよ。」

「?？」

「今日の放課後、職員室に來い。話があるから。來いよ!!」

そう言つと、去つてつた。

ええーっ?!!

いきなり呼び出し?

怒られるとか???

怖いっ!。

でも、行かなきゃダメだよねえ。

仕方ないか。

放課後。

あたしは怒られるようなこと何もしていないのに、ドキドキしながら職員室に向かった。

「失礼します。」

入っていくと横の部屋から声がした。

「相葉、こっちこっち。」

その部屋は生徒の間では謹慎室と呼ばれる恐怖の部屋。

名前通り、何らかの事を起こした生徒が入れられる謹慎部屋。

何もしてなくても怖い部屋なのに。

「いきなり呼んでごめんな。ちょっと聞きたいことがあるんだ。」

心拍数がどんどん上昇中。

「何ですか？」

きつと声が震えてる。

「あのさ・・・相葉は・・・」

プルルルル

東山仁が言いかけたとき携帯電話が鳴り響いた。

そして東山仁は

「ごめん、今日はいいよ。帰って。」

鳴り響くケイタイ片手にあたしを一人残して出て行った。

・・・えつと？

何が言いたかったの？

そして？

帰っていい？

ちょっと待ってよ。

・・・気になるじゃんかーっ!!

呼び出しといて放置って・・・。

こんな事なら京に待っててって言えばよかったな。

もう、最悪。

てか、頭の中もやもやしてるし。

睡眠不足になったら東山仁のせいだ。

絶つ
対!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8879g/>

神様の悪戯～17年前の秘密～

2010年10月28日01時30分発行